

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

前 奏

奏 楽 浅 池 慶 子 姉 妹

開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 13:1 よろずのものとわにしらす

よろずのもの とわにしらす御父よ 今恵みをくだしたまえ  
御名をほむるわれらに アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人

のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 13:3 いとも強き慰め主

いとも強き慰め主 御霊よ わが心を治めたまえ  
今よりのち 離れで アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 21 救 済 史 祈 禱 ② ノ ア 契 約

天と地と海と、その中の全てのものをお造りになった、活けるまことの神さま、かつて、あなたは、大洪水によって罪に陥った人類を滅ぼし、ノアによって用意された箱舟に乗った者だけを救われました。

今、あなたは、教会で救い主キリストを信じる者が、洗礼の水によってキリストと共に葬られ、キリストと共によみがえる約束を与えてくださることを心から感謝します。

仲保者キリストは、大洪水ののちに現れた、約束の虹のように、天地を結び、あなたとわたしたちとを結ぶ、救いの架け橋となってくくださったことを心から喜び、御名を賛美します。（創世記6～9、Iペトロ3、ローマ6、「聖書」一）

献 金 （黒）教会活動 （赤）東部中会中高生修養会を覚えて 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書8章40～56節（新約聖書120頁）

説教・祈祷 「命の言葉を与えるイエス」 熊田雄二牧師

\* 賛美歌 28 主よ命の言葉を

- 1 主よ 命の言葉を与えたまえ わが身に  
われは求む ひたすら 主よりたもう御かてを
- 2 ガリラヤにて 御かてを分けたまいし わが主よ  
今も 活ける言葉を 与えたまえ 豊かに アーメン

\* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ  
願わくは御名をあがめさせたまえ  
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ  
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ  
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ  
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ  
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 64 み恵みあふるる

み恵みあふるる 父・御子・御霊の ひとりの御神に 御栄え尽きざれ アーメン

\* 祝 禱

後 奏 （黙禱）

報 告 門脇陽子長老（司会・受付 次週：古澤純一長老）

本日 受付 1階：大日南隆夫執事 2階：加藤良明執事／動画：森川莞太兄弟 録音：大日南悠兄弟

六週 受付 1階：大日南信也執事 2階：星野房子執事／動画：雨宮信長老 録音：大日南信也執事

## I 湖の向こう岸から帰って来られたイエスと弟子たち

イエス様と弟子たちがガリラヤ湖の向こう岸から帰って来られると、ユダヤ人の「群衆は喜んで迎えた。人々は皆、イエスを待っていたからである」と、このエピソードの始めにあります。これは前のエピソード、向こう岸の異邦人の地で「ゲラサ地方の人々は皆、自分たちのところから出て行ってもらいたい」と言ったのと対照的です。

ゲラサ地方の人々は、悪霊に取りつかれた狂暴な男が癒されたのを喜ばないで、恐れに取りつかれてしまいました。悪霊たちは、狂暴な男から「出て行け」とイエス様から命令されて、豚の群れに入ることを願いました。その願いが許され、豚の大群が湖になだれ落ちてしまいました。それが恐ろしかったので、イエス様に「出て行ってもらいたい」と言ったわけです。

それでイエス様と弟子たちは、割と早く湖のこちら側に戻って来られました。こちら側では群衆が、今か今かと待っていました。そして割と早く帰って来られたので、喜んで歓迎しました。

## II 会堂管理人の娘

さて、今か今かと待っていた群衆の中に、ヤイロという人がいました。この人は、「会堂長」でした。ユダヤ教の会堂シナゴグには、会堂管理人が複数いたようです。この人は「会堂長」でした。上福岡教会では「会堂長」は「防火管理者」の牧師が兼ねています。しかし実際に会堂のことをよく知っているのは会堂管理役員たちです。

さて、この会堂長は、地位も名誉も捨てて、イエス様の足もとにひれ伏しました。ユダヤ教のファリサイ派やサドカイ派がイエス様を指名手配しているのを「会堂長」なら知っていたでしょう。しかし今、解雇されてもかまわないという心境です。

会堂長には12才くらいの一人娘がいました。少女の可愛らしさが真っ盛りの時なのに、死にかけていました。ヤイロは、イエス様の奇跡的な癒しを見たことがあるのか、噂を聞いていただけなのか分かりませんが、イエス様が帰って来られるのを今か今かと待ちわびて、到着なさるやいなや、ひれ伏して「私の家に来てください」とお願いしました。

ここのところ、マタイ福音書は、マルコ福音書、ルカ福音書と違います。「私の娘がたった今死にました。でも、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、生き返るでしょう。」と会堂長は言いました(9:18)。マタイ福音書では、死にかけているんじゃないくて、もう死んだんです。しかし、イエス様なら復活させることができると信じているんです！

## III 12年間出血が止まらない女

さて、イエス様が会堂長の願いに応じて家に行かれる途中、12年間出血が止まらない女が後ろから近づいて来ました。たぶん、この病気は宗教的に汚れているとされていたから、娘は社会復帰も願いながら医者をつらつらとし、財産を使い果たしていました。まだ結婚も可能な娘であろうに、死んだも同然の状態でした。

この女がイエス様の服の房にでも触れれば治ると思ったのは、迷信ではありません。「汚れた罪人や取税人たちと一緒に食事をするイエス様なら、汚れた私も近づける」と思ったのでしょう。普通のユダヤ人には近寄れないけれども、イエス様には近づけると思ったのでしょう。そしてイエス様の服の房に触ったとたん、直ちに出血が止まりました。

イエス様は御自分から力が出て行ったのを感じて「私に触れたのは誰か」と言われました。するとペトロが、「先生、こんなに群衆に囲まれて押し合いへし合いしているのですよ」と言いました。満員電車みたいな状態ですから、誰が触ったかなんて意味ないじゃないですか、というわけですね。

イエス様は、誰が触ったか分からないので「私に触れたのは誰か」と言われたんでしょうか。それとも、分かっているけれども、大事な事を教えるために「私に触れたのは誰か」と言われたんでしょうか。おそらく、分かっておられたでしょう。

「女は隠しきれないと知って、震えながら進み出てひれ伏し、触れた理由とたちまちいやされた次第を皆の前で話しました」。その信仰に対して主イエスは言われました。44節「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」「あなたの信仰があなたを救った」。「あなたの信仰」、これを教えるためでした。

#### IV 生き返った娘

イエス様がまだ話しておられるときに、会堂長の家から人が来て言いました。「お嬢さんは亡くなりました。この上、先生を煩わすことはありません。」ここでも大事な事を教えるために、会堂長に言われました。「恐れることはない。ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われる。」

ここのところ、マタイ福音書は、マルコ福音書、ルカ福音書と違うと、先ほど言いました。マタイ福音書では、会堂長が来た時、娘はもう死んでいました。マルコ福音書、ルカ福音書では、まだ死んでなくて死にかけています。死んだのなら急ぐ必要はありません。イエス様はいつでも生き返らせることができます。

死にそうだというのなら、早く来てください、となります。でも途中で「12年このかた出血がとまらない女」に時間を割いておられました。「あなたの信仰があなたを救った」と信仰の大切さを話しておられた時に、会堂長の家から人が来て「お嬢さんは亡くなりました。この上、先生を煩わすことはありません」と言いました。これだと、途中で他の人に時間をかけていなければ間に合ったのに、という恨み節が出て来そうです。しかし、ここでも大事な事を教えるために、会堂長に言われました。「恐れることはない。ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われる」と、信仰の大切さをお話しになりました。

さて、会堂長の家に着くと、もう葬式が行なわれようとしていました。人々は泣き悲しんでいました。泣くパフォーマンスをする職業的な泣き女というのもいたそうですが、マタイ福音書によると、笛を吹く者たちによる葬式の音響効果が流れて、集まった者たちは、すっかり葬式モードに入っていました。

そこへやって来られたイエス様は言われました。「泣くな。死んだのではない。眠っているのだ」。すると、悲しみのパフォーマンスはピタッと止んで、あざ笑いに変わりました。イエス様はそんな群衆は相手にせず、ペトロ、ヤコブ、ヨハネと両親だけを連れて家

の中に入り、娘の手を取って「娘よ、起きなさい」と呼びかけました。ここでも言葉による神のわざです。十字架の出来事を前にして、神の子キリストが共におられる所では、死んだ命も死んだままではいません。新しい命が始まっています。

「キリストと結ばれる人は誰でも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」（第二コリント5：17）という信仰は、今も、キリストの教会から始まっています。疫病感染の中にあっても、何らかの形で礼拝がささげられています。礼拝でキリストと共にいるという思いを、繰り返し強めていただいて、新しく生まれた者であるという生き方をしましょう。